

「かんさい熱視線 コロナで広がる"見えない貧困"

－収入激減 子育て世帯で何がー」の番組を見て

先日「コロナ禍で広がる見えない貧困」と題してNHK・かんさい熱視線で、収入激減子育て世代、瀬戸際の生活など現状報告があり、胸が痛みました。

特に低所得者層年収 200 万円未満の家庭が 30.6%減収だそうです。年収の高い人にはあまり影響がないのです。

その生活実態は

- ① 子どもが家計の支え手になっている。(アルバイト代を家計に等)
- ② 生活保護を受けるまでの層が一番苦しい状況 (家がある、車がある等の制限が厳しい。)
- ③ 年末年始まで持てるか？
- ④ 就学時援助金を受けていない層がまだまだ多い。(自己責任論がまだまだ根強く社会に残っている。)
- ⑤ 地域で周りの社会とどう繋がるか？繋がれない人が多い。
- ⑥ 社会が貧困層をとらえきれていない。(持続できる策を考える必要がある。)
- ⑦ 学校が一番見えているはず。(見えない貧困とつながるために守秘義務を超えて方法を考えるべき。) 大阪では学校プラットフォームを作っている。
- ⑧ 声をあげよう。

生活困窮者自立相談窓口を利用しやすいように工夫して欲しい。

しんどい事は当たり前にしんどいと受け取ること。 等々

子ども食堂を運営しながら今困っていることは、貧困層が見えないことです。守秘義務、守秘義務で縛られます。見えない貧困とつながるために、守秘義務を超えて方法を考えています。

「生野きらきら子ども食堂」はコロナ禍で休止していますが、学校に一度ご協力をお願いしてみたいと思います。またコロナ禍でも出来る事をメンバーと話し合いたいと思います。

